



盛り付けに大忙し

どっこい生きてる釜ヶ崎!!

# ピースクラブ通信

## No. 8

発行 社会福祉法人・ピースクラブ  
住所 〒556-0014 大阪市浪速区大国二丁目1-1  
連絡先 Tel&FAX 06-6647-2077  
Eメール peaceclub@2.dion.ne.jp

日雇労働者の街「釜ヶ崎」はJR新今宮駅南側のわずか1km四方足らずの地域にあり、新聞やニュースでは「あいりん地区」と呼んでいます。その一角にある通称三角公園で「勝ちどき」が中心になり、毎週火曜日、土曜日「炊き出し」をしています。

三角公園「炊き出し」は15年前、昭和の高度成長期に土木や建設現場で働いてきた釜ヶ崎の労働者達が高齢や病气、不況により働けなくなった仲間の労働者のために始めました。15年が経ち、最近では普通のサラ

リーマンだったのに多額の負債を抱えたとか、仕事や人間関係がうまくいかなかったなど、社会生活に順応できなくなって釜ヶ崎にきた人が増えています。

世界の経済はわずか半世紀でいちじるしい進歩を遂げた反面、機械や科学の発展が地球の自然環境を破壊し、時間に縛られ、お金に囚われ、スピーディーで効率のよい機械の様な生き方が人間の心や体をむしばんでいます。又、情報の多様化がいつも心を不安にさせ、家族や人間関係の希薄化が正しい判断を鈍らせ、ただ

私はいままで仕事を  
して稼ごうと思った  
ことがありません。  
前は絵が売れたりし  
ましたが、作風が変わった  
今ではいい絵を描きたいと  
は思っても、それで食べて  
いこうなんて気持ちは更々  
ありません。今までやって  
きた仕事といえば仕事も全  
部ボランティアで、お金に  
は縁のないことばかりです  
▼そういう好きなこと以外  
はしない生き方ができるの  
も、障害のため最低限の取  
入保障があるからで、家族  
を抱えた芸術家仲間からは  
「あんたはええのう、描き  
たいものだけ描けて」と言  
われてきました。彼らは生  
活のためにやりたくない仕  
事もしなければなりません  
▼今回、BBMCのことを  
書く参考にさせてもらっ↓

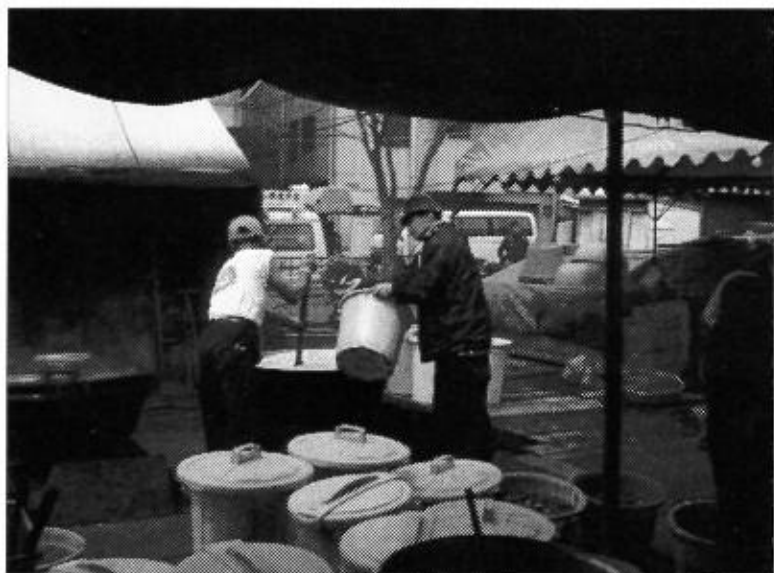
欲望の赴くままに生きていく様に思われます。

こんな時代に「炊き出し」なんて必要なかと言われることがあります。しかし、ビルやマンションなどコンクリートばかりのところでは魚や獲物を捕ること、野菜を作ることでもできません。仕事してお金を手に入れなければ食べ物にありつけないのです。そのため仕事がない労働者にとつて「炊き出し」はとても助かります。「生きる」為には何よりもまず「食べる」が重要なのです。

「炊き出し」は野菜やお肉、調味料、運営費などを多くの人々の善意で支えられてきました。しかし、年々釜ヶ崎のことを理解してくれる人は減る一方です。「釜ヶ崎は怖いところだ」「野蠻だ」「自業自得やから、ほつ

といたらええねん」と言われる人もいます。たしかにお酒やギャンブルで身を持ち崩した労働者も結構います。しかし、誰もが失敗をするものです。自分達はまじめに生きていると思っても、お酒を飲む様に「ちよつとくらい軍隊をもつ

ても」「ちよつとくらい憲法を変えても」とちよつとくらい大丈夫だと思つていたものが、やがては「いけいけ、やれやれ」と酔っ払つてしまい、戦争への道を進んでいくかも知れません。今ある平和も多くの人の失敗があつてのものであ



おいしくな〜れ!

り、誰もが失敗をしながら学んでいくのです。

多くの労働者は自分が選んだ生き方だから、他人を責めてはいけません。自分みたくになつてほしくないと思つています。苦しみも悲しみも経験しているからこそ、他の人にはそうなつてほしくないと思つています。「炊き出し」を作る人達もお金がもらえるわけではないのですが、朝から一所懸命働きます。人手が足りなくて困つていたら、誰かが助けに来てくれます。家族を捨て、多くのものを失いましたが、誰もが研ぎ澄まされた心を持っていきます。そこに本来の人間の姿がある様に感じていきます。

(勝ちとる会・上村将章)

☞タリチャード・アルセーニョさんの論文の中にハンディクラフト・メンタリティーという言葉があつて、今それが喉の奥に刺さっている気がします。つまり自分の場合に置き換えて言えば、絵だけが生きる手段という強い思い込みが、過度のうぬほれや傲慢か、助けなしでは生きていけないという過度の内気さや劣等感のどちらかの障害者心理を生むというもので、私にはどちらもあるように思います▼働かなければ生きていけないフリービンの障害者、働きたくても働けない釜ヶ崎の労働者。この2つの事柄を取り上げたことで、ピースクラブのやってきた「就労」という問題が、生きがいという感覚だけで捉えてきた自分の中で、やっと確認できた気がします。(普)

## ◆ニューメンバー紹介◆ニューメンバー紹介◆ニュー



左から榎内亜矢子さん、坂井美子さん、吉富薫さん

## 浅賀ひろみさん

4月からピースクラブのスタッフに加わりました浅賀ひろみです。見た目は若そうですが(自称)、まあそこそこいっています。

以前、ニューウェーブのお手伝いや、ピースの泊まりをしてました。8年間、

大阪を離れてましたが、帰ってきましたので、又、皆さんの仲間入りさせて頂くことになりました。通称ひろみ、です。

よろしくお願ひします。

(写真上)

## フィリピン、BBMCの仲間たち

真の自立生活を求めて

4月の14日から22日まで、ピースクラブにフィリピンの2人の青年が滞在していました。この機会にフィリピンの障害者の暮らしぶりをお聞きしました。

フィデル・アキノさんとアイシー・ベイオさんの2人はBBMC (Bisay Bula (生活を与える) 多目的共同組合) というフィリピンで初めて立ち上げられた障害者の共同体組織のメンバーです。

2人の日本の旅が実現したきっかけは、2000年(もしくは2001年)にニューヨークで開催された障害者が集まる国際会議で、

当時のBBMCのジェネラルマネージャーであったリチャード・アルセーニヨさんと共同連の斉藤懸二さんとの出会いでした。今回、共同連とわっぱの会のタイアップにより、日本の

障害者がどのような仕事を生活しているのかを見、よいアイデアをフィリピンに持ち帰るための来日です。2月19日に名古屋、わっぱの会へ到着し、それから大阪、九州、滋賀と回り、名古屋から5月17日にフィリピンへ帰国予定です。

1990年、フィリピンの首都マニラの北東に隣接するケソン市の大学に通う障害者を持つ学生たちが、学

内の生活環境の整備を求めて演劇やコンサートなどを開く行動を起こしました。

それによって彼らは十分な資金を得、大学側も環境改善に速やかに対応しました。しかし、間もなく彼らは恵まれた大学内の生活を捨て、街に出ました。真の自立生活を求めて、です。そして1991年10月、障害者自らが運営する協同組合として、政府から最初に認証を受けたのが、このBBMCです。

彼らの起こした事業は地域に確かな変化をもたらしました。差別をなくし、普通に暮らすという本来の目的に向かって貧困地域の社

会文化的向上にも取り組み、地域の住民から尊敬と賞賛を得るようになりました。

1996年、139人分の学校用椅子とバック製作のプロジェクト以来、B・B・M・Cは学校の椅子を製作し、公立・私立の学校に卸しています。その他、一般家具、カバンも製造しています。40名のスタッフの内、車いすが2人、知的障害と呼ばれる人2人。視覚障害者が1人、おこづかい程度の健常者のボランティアが1人で、アキノさんが事務関係、アリシーさんは製造担当のマネージャーだそうです。

運営はかなり厳しく、受注は競争入札で仕事のあるときしか収入がありません。フィリピンの障害者は、自力で仕事を見つけて生きていくしかないのが現状で

す  
大学の学生たちから始まったB・B・M・Cですが、フィリピンでの障害者教育について伺いました。

で行くことができました。その後、公立の高校、大学へ進学（フィリピンでは小学校6年、高校4年、大学2年）。



前列左からフィデル・アキノ、右アイシー・ベイオさん、

アキノさんは公立の小  
学校に弟の助けがあったの

アリシーさんは障害が軽  
いので公立の小学校へ入学。

その後、高校、障害者のための職業訓練学校と進み、ミシンの使い方、パターンのとり方を学びました。

フィリピンでは公立の学校の受け入れ枠が狭く、障害者のための必要な設備が整っていないので、私立に行くしかありません。障害者は重度になればなるほどお金持ちでなければ学校に行けないのが現状です。「現実、人口の7割が貧困層であると言え、学校へ行くことがどれだけ難しいことかわかってもらえるだろう」とのことでした。

最後に今後のビジョンをお聞きしました。  
まず、日本でたくさん障害者に出会い彼らの仕事を  
ぶりを見て、みんな楽しそうに仕事をしているのに驚いたそうです。

フィリピンでもっと障害者が働ける場所を作るためにも、B・B・M・Cとしては、同じような共同体をたくさんつくっていくこと。今もB・B・M・Cを目標にした共同体が少しずつ増えているし、B・B・M・Cも彼らを支援しています。

そして、最も大きい課題は国と健常者に障害者を認めてもらう事。障害者の権利を尊重し、障害者の可能性を信じてもらう事だと語られていました。

2人のお話を聴いて、私は自分の子供のころの状況を思い出していました。20歳近くなるまで家庭の中で育った私は、障害者運動とは縁遠かったのですが、自分と同じか、ちよつと上の世代の仲間たちの闘いの恩恵を受けて、今のよ

22 April 2007

Peace Club

Osaka City

Onishi San, Erika San, Haru San,

To All Peace Club members  
and Friends

We want to thank you  
for your warm acceptance  
of us. Thank you for your  
kindness and friendship

We will always remember  
all of you.

See you all again  
someday. Arigato

Alsee Bello Fidel Aquino

うな生活を送っています。  
フィリピンに帰られてか  
らのお2人のご活躍を祈っ  
ています。  
(報告・中村晋作)  
(通訳・取材アシスト  
にいでえりかさん)

2007, 4, 22

大阪  
ピースクラブ

大西さん、えりかさん、春さん  
ピースのみなさん  
私たちが暖かく受け入れてくれて ありがとう  
そして友情に感謝します。  
いつまでも忘れません。  
いつの日かまた会いましょう  
ありがとう

アイシー・ベイオ フィデル・アキノ

## 【これからのスケジュール】

6月7日(木)~14日(木)

アジア4国障害者国際交流大会2007ハノイ  
~友好・協力・平和・平等・交流  
(10名研修)

7月5日(木)

七夕瞑想

《訂正とお詫び》先の3月号で田中仲(建)さんの名前が一箇所(健)になっていました。訂正してお詫びいたします。その他、いろいろ間違いが多いのを見かねて、これから幹さんがサポートしてくれるそうです。今回は初めて6ページ。それにピースのレーザープリンターでの印刷なので、写真もきれいだと思います。

(編集担当: 中村晋作)

あさこの  
宮古島だより

1月10日から始まったサトウキビ刈り。今年もピースクラブから沢山の援農隊？

単調だが、1日に4つ〜5つの山積みが精一杯、1台のダンブに15〜16山積んで出荷する。晴れてると仕事もスムーズだが、雨が降ろうものなら作業はほとんど遅れていく、3月中旬までと農期が決まっているので雨が降ろうが、ヤリが降ろうがやらないといけない。

1月30日〜2月3日までの予定でやって来た河野グループ。

「しんどいわ〜、しんどいわ〜、しんどいわ〜。」とキビ畑に寝転ぶ、それを見て弘子さんもポーンと投げ出す。あかねさんはまあまあ自分のペース、皆それな

りに仕事のやり方を覚え終った。  
2日目、出来る仕事なく休み、3日目、飲み物、おやつを沢山持っていざ!!  
「しんどいわ〜、たほこちようだい!」の千代子さん、1本やっってはポーンとほる。お陰で山は傾き加減、山がきれいに出来るかは性格にもよるらしいけど・・・。

3日目にもなるとペースよく午前中に2山も出来、調子に乗ってきた。弘子さんも、あかねさんも枯れ葉を取るのがとても上手でスピードもアップ、慣れてくると仕事にはまってきた。

せっかく慣れてきたのに明日は帰ってしまう。

第2陣、裕君、えりかさ

ん、ゆりえさん、瓶田さん、進ちゃん。

ゆりえさん、瓶田さん、

進ちゃんは2回目、何となく仕事を知っているせいか結構調子いいグループ。瓶田さんは昨年インフルエンザで倒れたのを挽回するかのうようにサトウキビを束にしてかついでいた。仕事人の進ちゃんも黙々と丁寧に、ゆりえさんは昨年よりは働いていた。

第3陣、必殺仕事人の春

さん、浜ちゃん、勝博、郁也組。「仕事に来た!」と春さんは朝早くから畑に出て行った。

斧で倒す前のサトウキビの穂の部分のカットする作業。春さん、浜ちゃんは燃えていた。一緒に来た勝ちゃん、郁也は学童仲間の吉郎と行動、2人は黙々と仕事しては、夜9時には眠っていた。お陰で今期のサトウキビの作業は3日程早く終

わった。仕事人春さん、浜ちゃんのお陰でね。

何でも積み重ね、毎年の体験として繰り返す事で、いつしか本物の援農隊になれる日が来るだろう。

ピースクラブの皆さん、労力と笑いをありがとうございました。後日、近所の人が「あの畑には沢山人がいるけど、アルバイトかね?その割には仕事進んでないように見えるけど・・・」と町のうわさになってたらしい。

(あさこ)

6